

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ

1. 事業の概要

事業名称	定住する外国につながる若者への日本語教育支援事業
事業の目的	神奈川県北部地域（相模原市、大和市、座間市、海老名市、厚木市、綾瀬市等）を中心とした地域やその周辺地域に定住する外国につながる子どもや若者が、基礎からしっかりと日本語を学び、ひいては社会的な自立を目指し、自分の将来の生活設計や社会参画に生かせるような質の高い日本語を学べる場としての日本語教室を交通機関の要所の相模大野に設置し、運営する。そのために、地域の公的な機関や支援組織（日本語ボランティア教室や国際交流団体）と当団体との既存するネットワークを生かし、日本語指導者研修などの機会を利用して、互いに当該の若者の状況把握し、支援の連携協力体制を整備する。日本語教育に携わろうと意欲のある大学生が本団体の中核メンバーの助言を受けながら、若者に対して日本語指導を行う実践の場として定着をしているので、継続して教室の運営や研修機会の拡充を図る。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	神奈川県北部地域（相模原市、大和市、座間市、海老名市、厚木市、綾瀬市等）は、定住する外国につながる子どもたちや若者が数多く生活している地域である。そのルーツは、中国、フィリピン、ブラジル、ペルー、ベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、アメリカ、パキスタン、ネパールなど10数各国に及ぶ。しかしながら、大人向けの日本語教室はいくつかあるが、子どもや若者向けの日本語教室はほとんど無い地域である。こうした状況の中で、近い将来日本社会で自立し、社会参加しようと考えている子どもや若者が、しっかりと日本語を学ぶ場が必要であり、若者たちも求めている。それは、平成27年度において1日平均26名の若者が北部地域の広範囲からやってきたことからそのニーズの高さがわかる。また、定住が長い外国人家庭も多く、その家庭では、親子間のコミュニケーションスキルを高めるための日本語教室も必要な状況である。
事業内容の概要	上記のような状況を踏まえ、神奈川県北部地域の交通の要であり、広範囲の地域から集える利便性の高い相模大野にある、相模女子大学の構内の多文化学習活動センターにおいて、日本語教室を週1回（土曜日）に開催する。また、相模女子大学をはじめとした大学生がボランティアとして日本語指導を担当し、コーディネーターが助言にあたる。豊富な人材やネットワークを生かし、本教室のボランティアをはじめ、本教室以外で活動している日本語指導者や学校で日本語指導に携わっている人などに対し、研修会を実施する。さらに、本教室の対象となっている外国につながる若者の社会参加自立に向けた教材を作成する。
事業の実施期間	平成28年4月～平成29年3月（12か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	永谷直子	相模女子大学 非常勤講師
2	樽松かおる	桜美林大学 教職センター長
3	下山公香	相模原市教育委員会 指導主事
4	杉山肇	相模原青陵高校 校長
5	坂本万里	弥栄高校 校長
6	井上恭宏	修悠館高校
7	山本重耳	座間総合高校
8	武一美	NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ
9	鈴木陽子	元相模原市教育委員会日本語指導者
10	豊島アニタ	さがみはら国際交流ラウンジ
11	永井慈史	相模原青陵高校
12	角田淳	相模原青陵高校
13	高橋徹	NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ
14	高橋清樹	NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年5月24日(火) 15:00～17:00	2時間	相模女子大学	永谷直子、樽松かおる、杉山肇 下山公香、武一美、鈴木陽子 豊島アニタ、永井慈史、角田淳 高橋徹、高橋清樹	・日本語教室の運営状況の報告 ・研修会の計画 ・教材作成について(企画案検討) ・情報交換
2	平成29年1月18日(水) 15:00～17:00	2時間	相模女子大学	永谷直子、杉山肇、坂本万里 武一美、井上泰浩 鈴木陽子、豊島アニタ、永井慈史 角田淳、高橋徹、高橋清樹	・日本語教室の運営状況の報告 ・今年度のまとめと来年度の計画 ・教材の完成に向けて ・情報交換

(2) 事業の実施体制

各事業の責任者をコーディネーターが務める。1)日本語教室を佐屋麻利子と蔡金燕、2)研修を藤井美香、3)教材作成を武一美、運営委員会には武一美が参加し、各事業の報告を行う中で、大学、高校、地域支援団体、当団体との地域連携のもと、様々な視点からご助言やご提言を受けながら、協議するできた。

(3) 地域における連携体制

当団体は、県教育委員会を始めとして、市町村教育委員会、中学校、大学との連携を幅広く行っており、地域の日本語教室等とも連携している。また、さがみはら国際交流ラウンジ、横浜市国際交流協会、かながわ国際交流財団、かながわ県立国際文化アカデミア、あーすプラザなどとも連携している。特に本事業では、場所や人材提供を、相模原青陵高等学校、日本語教育の専攻学部を持つ相模女子大学、桜美林大学と密接に連携して行った。また、県内の若者サポートステーションとの連携で社会参加が困難な外国につながる若者の相談を定期的に行った。

3. 各取組の報告

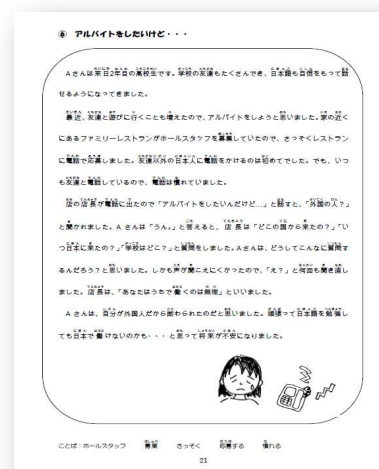
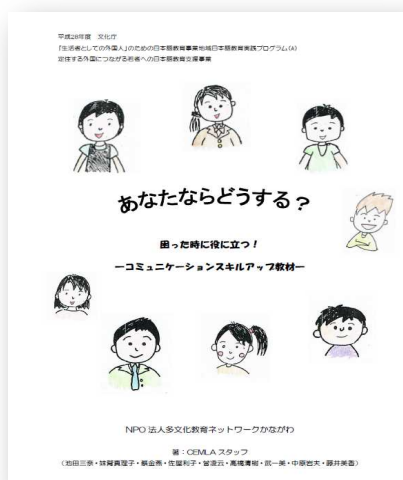
日本語教育の実施【活動の名称:定住する外国につながる若者ための日本語教室(相模大野日本語教室CEMLA)】									
目的・目標	神奈川県内には広く定住する外国につながる子どもや若者が住んでいるが、子どもや若者を対象とした十分な日本語学習ができていない状況にある。その結果、孤立し、社会参加が難しい者も少なくない。当教室では、若者の将来の自立した社会参加を見据えた初中級から上級に至る日本語教育の場や支援の拠点づくりを目的とする。								
対象	神奈川県北部地域(相模原市、大和市、座間市、海老名市、厚木市、綾瀬市など)に定住する外国につながる若者で、来日間もない者や日本語学習を通して社会参加を考えている者								
取組の内容	相模大野日本教室(CEMLA)では、毎週土曜日に2時間の日本語教室を開催した。指導には、日本語指導者をはじめ、相模女子大学や桜美林大学等の学生がボランティアとしてあつた。個別対応形式と教室形式を組み合わせ、学習者のニーズにあった形式や内容を実施した。 初級者・・・個別指導を中心として「みんなの日本語」「みんなの日本語文型練習帳」、「かんじ大すき」、自主作成教材などを用いて学習した。日本に来たばかりの若者が対象となるので、日常生活をおくる上で、日本語がわかり、使え、楽しいコミュニケーションが図れ、自信につながる学習を目標とした。学生ボランティアとの会話学習も生きた日本語学習となった。 中級者以上・・・日本に来て1年～2年の若者が対象となるが、今年度本事業で委託を受けた自主教材を含めて、社会参加に向けたソーシャルスキルの向上やコミュニケーション能力の向上、情報化社会の基礎知識の取得、今日的な社会課題やニュースに対する理解と表現、自分の将来や自立に向けた課題解決のための表現及び言語活動などを行った。一定人数の学習者を募集し、講義・講座的な形で展開した。 他に、日本生まれだが、日本語の取得が不十分な若者も多く、教室に来ているので、基礎からの日本語学び直しという観点で指導を行う。若者特有の思春期や自尊心から、基礎の日本語から学習するような場があっても参加しない・できない若者も多い。そうした若者が生活場面で出てくる日本語がわからないという訴えをしばしば耳にするので、そうした若者がゆっくり、わかりやすく学べる場として機能させたい。								
実施期間	平成28年4月23日～平成29年3月11日				曜日・時間帯		土曜日(10:00～12:00)		
開催回数	全 74時間 (1回 2時間 × 37回)				開催場所		相模女子大学		
参加者	総数 2,462 人 (日本語学習者 1,256 人、指導者・支援者 1,206 人など)				使用した教材・リソース		「みんなの日本語」、「みんなの日本語文型練習帳」、「かんじ大すき」、本事業による自主作成教材など		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	87	0	58	98	56	81	4	65	507
パキスタン(113人)、スリランカ(47人)、スペイン(5人)、台湾(9人)、アメリカ(45人)、ドイツ(3人)、ニュージーランド(17人)、コロンビア(5人)、コートジボアール(8人)、カンボジア(18人)、チリ(15人)、スウェーデン(4人)、メキシコ(3人)、マレーシア(2人)、バングラディシュ(6人)									
カリキュラム案活用	教材例集では、「消費活動について」学ぶ際の参考資料として活用した。 「日本語学習ポートフォリオ」を参考にして、社会参加を目指す若者が自ら日本語学習の記録を書いて、活用した。 指導力評価について、実際に評価をしてみることで、日本語教室の質の向上を図った。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成28年4月23日(土) 10:00～12:00	2	相模女子大学	37	自己紹介 基礎日本語力1 コミュニケーション力1	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、総カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級 「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 ボランティア(別表)	
2	平成28年4月30日(土) 10:00～12:00	2	相模女子大学	31	基礎日本語力2 コミュニケーション力2	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、総カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級 「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 ボランティア(別表)	
3	平成28年5月7日(土) 10:00～12:00	2	相模女子大学	29	基礎日本語力3 コミュニケーション力3	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、総カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級 「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 ボランティア(別表)	
4	平成28年5月14日(土) 10:00～12:00	2	相模女子大学	35	インタビューしよう1 基礎日本語力4 コミュニケーション力4	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、総カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級 「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 ※大学生ボランティアへのインタビュー内容の検討 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 ボランティア(別表)	
5	平成28年5月21日(土) 10:00～12:00	2	相模女子大学	46	インタビューしよう2 基礎日本語力5 コミュニケーション力5	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、総カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級 「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 ※大学生ボランティアへのインタビューの実施とまとめ 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 ボランティア(別表)	
6	平成28年5月28日(土) 10:00～12:00	2	相模女子大学	34	基礎日本語力6 コミュニケーション力6	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、総カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級 「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 ボランティア(別表)	
7	平成28年6月11日(土) 10:00～12:00	2	相模女子大学	29	基礎日本語力7 コミュニケーション力7	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、総カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級 「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 池田三奈 ボランティア(別表)	
8	平成28年6月18日(土) 10:00～12:00	2	相模女子大学	32	基礎日本語力8 コミュニケーション力8	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、総カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級 「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 妹背真理子 ボランティア(別表)	
9	平成28年6月25日(土) 10:00～12:00	2	相模女子大学	31	基礎日本語力9 コミュニケーション力9	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、総カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級 「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 妹背真理子 ボランティア(別表)	

[illegible]

32	平成29年2月4日(土) 10:00~12:00	2	相模女子大学	27	季節行事(豆まき) 基礎日本語力32 コミュニケーション力32	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、絵カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 ボランティア(別表)
33	平成29年2月11日(土) 10:00~12:00	2	相模女子大学	27	基礎日本語力33 コミュニケーション力33	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、絵カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 妹背真理子 ボランティア(別表)
34	平成29年2月18日(土) 10:00~12:00	2	相模女子大学	16	どんな仕事につきたい? 基礎日本語力34 コミュニケーション力34	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、絵カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 妹背真理子 ボランティア(別表)
35	平成29年2月25日(土) 10:00~12:00	2	相模女子大学	30	基礎日本語力35 コミュニケーション力35	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、絵カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習、スピーチ準備	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 妹背真理子 ボランティア(別表)
36	平成29年3月4日(土) 10:00~12:00	2	相模女子大学	26	季節行事(ひな祭り) 基礎日本語力36 コミュニケーション力36	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、絵カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習、スピーチ準備	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	曾凌云 妹背真理子 ボランティア(別表)
37	平成29年3月11日(土) 10:00~12:00	2	相模女子大学	26	交流会(スピーチを聞こう！) 基礎日本語力37 コミュニケーション力37	日本語力と学習進度に応じた個別指導 初級は、絵カードを用いて語彙を増やす。また、簡単な会話を楽しむ。 中級「みんなの日本語・文型練習帳Ⅰ」「かんじだいすき」などを用いた学習。さらには、簡単な読解教材を用いて会話に結びつける。 上級 新聞コラムの読み取り、作文、「みんなの日本語・文型練習帳Ⅱ」などを用いた学習、スピーチ発表	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕 山口静香	中原岩夫 曾凌云 池田三奈 妹背真理子 ボランティア(別表)

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:定住する外国につながる子どもや若者の日本語教育支援の方法と課題】										
目的・目標	大学との連携において、日本語教育の人材育成・研修を学生ボランティアや地域のボランティア希望者向けに行う。本事業の日本語教室運営事業を生かし、対象となる若者の状況や日本語教育の実践と課題を中心とした実践的な研修とする。									
対象	本事業の日本語教室でボランティアをしているまたはボランティアを希望する学生。地域のボランティア教室で日本語支援をしているボランティア。学校関係者など									
取組の内容	今日的なテーマを定め専門家を招いて研修会を1回(3時間)実施した。また、日本語ボランティアを行っている人や行おうという意思のある人向けの実践講座を9回実施した。前者の具体的なテーマとしては日本語指導の初級者向けに「日本語を教える楽しさって？」を実施した。本事業の日本語教室や参加者自身が関わる日本語教室等の場面で実践を行い、その結果を研修講座でフィードバックする形をとった。									
実施期間	平成28年5月14日～平成29年3月4日				曜日・時間帯		土曜日(10:00～ 15:00)			
開催回数	全 30時間 (1回 3時間 × 10回)				開催場所		相模女子大学			
参加者	総数 160人 (日本語学習者_0人、指導者・支援者_160人)				使用した教材・リソース		モンゴルの風、Eboard、自主教材			
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	8	0	3	0	1	2	3	4	5	
	日本人(139人)、台湾(5人)									
カリキュラム案活用	カリキュラム案に基づいたガイドブックの「具体的な日本語教育のプログラム作り」を参考にして、学生ボランティアの研修も含めた良質の研修会を実施した。									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名	
1	平成28年5月14日(土) 10:00～11:00 13:00～15:00	3	相模女子大学	18	学習者の状況を知る 日本語指導の基本	・CEMLA教室で学ぶ子どもたちの状況を自身も当事者である講師が子どもの気持ちに立って講話する。 ・日本語指導の基本について学ぶ ・研修講座の後、実際に指導してみる。教室終了後は振り返りや質疑応答を行う		曾凌云	武一美 佐屋麻利子 藤井美香	
2	平成28年6月18日(土) 10:00～11:00 13:00～15:00	3	相模女子大学	18	初級者向け絵カードを用いた語彙の学習指導	・「初級者向け絵カードを用いた語彙の学習指導」について講話する。 ・研修講座の後、実際に指導してみる。教室終了後は振り返りや質疑応答を行う		妹脊真理子	佐屋麻利子 藤井美香	
3	平成28年7月9日(土) 10:00～11:00 13:00～15:00	3	相模女子大学	19	中上級者向けの新聞読解の指導1	・「中上級者向けの新聞読解の指導」について講話する。 ・研修講座の後、実際に指導してみる。教室終了後は振り返りや質疑応答を行う		中原岩夫	佐屋麻利子 藤井美香	
4	平成28年9月24日(土) 10:00～11:00 13:00～15:00	3	相模女子大学	15	中上級者向けの新聞読解の指導2	・「中上級者向けの新聞読解の指導」について講話する。 ・研修講座の後、実際に指導してみる。教室終了後は振り返りや質疑応答を行う		中原岩夫	佐屋麻利子 藤井美香	
5	平成28年10月15日(土) 10:00～11:00 13:00～15:00	3	相模女子大学	12	文法の指導法について 1	・「文法の指導法」について講話する。 ・研修講座の後、実際に指導してみる。教室終了後は振り返りや質疑応答を行う		池田三奈	佐屋麻利子 藤井美香	
6	平成28年11月5日(土) 10:00～11:00 13:00～15:00	3	相模女子大学	16	中国語話者の指導法及び注意すべき点	・「中国語話者の指導法及び注意すべき点」について講話する。 ・研修講座の後、実際に指導してみる。教室終了後は振り返りや質疑応答を行う		曾凌云	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕	
7	平成28年11月26日(土) 13:00～16:00	3	相模女子大学	20	日本語を教える楽しさって？	・「日本語を教える楽しさ」について講話する。 ・教科と日本語をつなぐ指導法について具体的に教材「Eboard」の教材を使って指導案作りを行う。		齋藤伸子	佐屋麻利子 藤井美香 蔡金燕	
8	平成28年12月10日(土) 10:00～11:00 13:00～15:00	3	相模女子大学	14	文法の指導法について 2	・「文法の指導法」について1回目の実践の振り返りを含めて効果的な指導法について講話する。 ・研修講座の後、実際に指導してみる。教室終了後は振り返りや質疑応答を行う		池田三奈	佐屋麻利子 藤井美香	
9	平成29年2月4日(土) 10:00～11:00 13:00～15:00	3	相模女子大学	10	中級者向けの指導法	・「中級者向けの指導法」について講話する。 ・研修講座の後、実際に指導してみる。教室終了後は振り返りや質疑応答を行う		山口静香	蔡金燕	
10	平成29年3月4日(土) 10:00～11:00 13:00～15:00	3	相模女子大学	18	まとめ	講座全体を通しての振り返りを行い、今後CEMLA教室等で日本語指導をボランティアとして実施するための心構えなどについて講話する。		妹脊真理子	武一美 佐屋麻利子 藤井美香	

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：あなたならどうする？ 困った時に役に立つ！—コミュニケーションスキルアップ教材—】			
目的・目標	外国につながる若者が日本社会で就労するためには、一定程度以上の日本語力が必要である。そのために必要な日本語力をスキルアップするための教材を作成する。		
対象	外国につながる若者で社会参加(就労)を目指す者		
教材の内容	あなたならどうする？ 困った時に役に立つ！—コミュニケーションスキルアップ教材— I 部 ケース教材 各ケースの意図・使い方のアドバイス <学校編> ①学校を休むとき、②正直に答えたのに、③なんでいけないの？ ④どうして自分だけ？、⑤太い方がいい！はダメ・・・？ <アルバイト編> ⑥アルバイトしたいけど、⑦お客さんに聞かれたから、⑧なんで怒られるの？ ⑨通訳できると思ったら、⑩急に国に帰ることになって <大学編> ⑪文化や習慣の違いから、⑫一斉メールに返信しなくちゃダメ？ <会社編> ⑬何回も聞いたら悪いから、⑭どうやって断ったら ⑮作業マニュアルが分からなくて、⑯いわれてないから 第II部 実践報告 入門・初級クラス、中級クラス、中上級クラス		
実施期間	平成28年4月23日～平成29年3月18日	成果物のリンク先	http://www15.plala.or.jp/tabunka/
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	1回 2時間 × 30回 =60時間分	教材の頁数	80 ページ
カリキュラム案活用	カリキュラム案及び活用のガイドブックの生活場面での「社会の一員となる」等に基づき、教室活動を実践的に行うような教材作成に活かした。 また、教材作りには教材例集の構成を参考にして、学習者が興味を引く教材作りを行った。		
教材の活用方法	本団体のネットワークを生かし、他団体へ資料提供し、活用してもらう。		
今後の活用の予定	来年度以降も本事業の日本語教室は継続する予定なので改善しながら使用する。		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

神奈川県北部地域(相模原市、大和市、座間市、海老名市、厚木市、綾瀬市等)を中心とした地域やその周辺地域に定住する外国につながる子どもや若者が、基礎からしっかりと日本語を学び、ひいては社会的な自立を目指し、自分の将来の生活設計や社会参画に生かせるような質の高い日本語を学べる場としての日本語教室を交通機関の要所の相模大野に設置し、運営する。そのために、地域の公的な機関や支援組織(日本語ボランティア教室や国際交流団体)と当団体との既存するネットワークを生かし、日本語指導者研修などの機会を利用して、互いに当該の若者の状況把握し、支援の連携協力体制を整備する。日本語教育に携わろうと意欲のある大学生が本団体の中核メンバーの助言を受けながら、若者に対して日本語指導を行う実践の場として定着をしているので、継続して教室の運営や研修機会の拡充を図る。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・日本語教室の実施、日本語研修講座の開催、日本語教材の作成のいずれも予定通り、実施し成果を上げることができた。それは、事業も目的にあるように「外国につながる若者」が本教室のような場所を求めているというニーズがあり、当事者だけでなく多くの支援者(ボランティアや見学者)が参加した数からもわかる。また、学習者へのアンケートの満足度からも言える。日本語指導に当たっては資格を有した日本語指導者が、グループを構成して指導助言にあたることで、ボランティアも安心して活動に参加できたことももう一つの要因であると考えている。今後もこの体制を維持して、多くの外国につながる若者が社会参加を果たす場として機能させ、さらにはロールモデルとして次の世代の若者に対する意識付けをもたらす好循環が起きよう働きかけたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

日本語教室においては、それぞれの学習者のニーズに合わせて、学習教材を選択しているが、教材例集の「消費活動について」学ぶ際の参考資料として活用したり、「日本語学習ポートフォリオ」を参考に、社会参加を目指す若者が自ら日本語学習の記録を書いて、活用した。人材育成については、カリキュラム案に基づいたガイドブックの「具体的な日本語教育のプログラム作り」を参考に、学生ボランティアの研修も含めた良質の研修会を実施した。教材づくりでは、カリキュラム案及び活用のガイドブックの生活場面での「社会の一員となる」等に基づき、教室活動を実践的に行うような教材作成に活かした。また、教材作りには教材例集の構成を参考に、学習者が興味を引く教材作りを行った。これらの日本語教室や人材育成については、地域の研修会やセミナーで報告をした。また、教材については地域の支援者向けにデータ化して配布した。地域の日本語教室や中学校の日本語教室で活用していただいていると聞いている。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

・相模原日本語教室(CEMLA教室)は、地域の支援者が新規学習者を伴って来訪することも多く、見学者だけでも総数は100名を超えている。また、相模原市教育委員会をはじめとした各市(大和市、海老名市、厚木市、横浜市)の教育委員会とも連携を図っている。連携は各地域でそれぞれの中学校や日本語教室などと連携がなされている。いくつか例をあげると、①相模原市内の日本語学習教室の連携会議が相模原市教育委員会の呼びかけで昨年度は2回開催された。②厚木市や大和市や横浜市の教育委員会の依頼で国際教室担当者会議の研修講師を派遣し、CEMLA教室の状況や実践報告を行った。上記のような活動を通して地域との連携や発信などを図った。

(5) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・相模原日本語教室(CEMLA教室)はについての広報は、地域の中学校や高等学校及び日本語教室や学習教室のある公共施設にチラシを設置するなど、対象となる相模原、大和、座間、海老名、厚木、藤沢をはじめ、遠くは秦野、愛川町、横浜、川崎からも学習者がやってきた。「どこでCEMLA教室の存在を知ったのか？」尋ねてみると、日本語指導者や中学校の先生など支援者からの勧めによるものが多かった。中には日本に来たばかりで日本語もわからないまま中学校に通うことになる子どもや親が、その不安を教育委員会で相談し、CEMLA日本語教室を紹介されたというケースも何件あった。学習者も年々増えていることから、広報の周知が図られているものと考えている。また、夏に実施したCEMLA研究会や地域の研修講座で、ME-netの活動を紹介する場面も何回もあり、事業の成果についても報告している。

(6) 改善点、今後の課題について

・昨年度から日本語のレベルによってグループ分けをして、5つのグループに学習者を振り分け、それぞれのグループに大学生ボランティアを配置してマンツーマンで指導する形式をとった。各グループには指導者を配置して教材の選定やボランティアへの助言などを行い、ボランティアが不安に思ったり、課題に感じたことに対してすぐ対応できるようにした。改善点としては、教室の時間帯以外にもボランティアと日本語指導者との研修機会を増やし、教室での実践経験と研修を連携させながら、ボランティアのスキルアップにつなげていきたい。

(7) その他参考資料

教室の様子



交流会の様子



研修会の様子

